

特別養護老人ホーム明合乃里
介護リーダー 森田 智加



私は、介護の仕事に就いて十年以上経ちますが、正直なところ、これ程続けるとは思っていませんでした。入社した当時は、ただ「祖父母の介護が出来る技術が身に付けられたらいいな」といった程度しか思っていなかったからです。

私は『人』と接することがあまり得意な方ではなかったもので、介護に携わった入社当時は、おむつ交換等の直接介助以外は積極的に関わってなかったように思います。そんな中、五年前祖父が亡くなり、その半年後に入退院を繰り返していた祖母も亡くなりました。結局何もしてあげることが出来ず、何の為に介護の勉強をしていたのか、そして、仕事を続けるかどうかとても悩みました。ただ、生前、更衣や排泄介助には、出来るだけ関わると共に、祖父母が一番喜ぶこと、子供達を連れて見舞いに行くように心掛けていました。少しでも元気になってもらえるよう、喜んでもらえるようにと色々考えました。後になって母から、「智加に爪を切ってもらい、伸びているのがわかり、『生きてる』と思えた。」と入院中の祖母が喜んでいたことを聞き、私はとても嬉しかったです。そんな祖父母との関わりと、あけあい会での経験で私は少しずつ変わったのかもしれない。

人と接することが得意だとまだまだ言えないかもしれませんが、今は、利用者様の笑顔や「ありがとう」と言って頂けるのが嬉しくて、少しでも利用者様に喜んで頂けるように、ここに来て良かったと思って頂けるように、私は今もまだ介護の現場を離れずに居ます。